

美術学部

美術学部准教授 高橋 綾子

1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等・論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
【展覧会（プロジェクト）企画】			
あいちトリエンナーレ 2010 高嶺格 「いかに考えないか」企画協力	2010. 10. 8 ～10. 17	七ツ寺共同スタジオ	あいちトリエンナーレでの高嶺格によるプロジェクトの企画運営協力。展示、パンフレット編集等。
あいちトリエンナーレ共催企画 「往還－地の荒野から－」 美術プロデューサー	2010. 7. 24 ～10. 25	七ツ寺共同スタジオ	あいちトリエンナーレの共催企画。企画全般の運営協力と美術プロデューサーをつとめた。
あいちトリエンナーレ共催企画 「往還－地の荒野から－」 三田村光土里展 《青い誘惑》キュレーション	2010. 9. 10 ～9. 12	七ツ寺共同スタジオ	あいちトリエンナーレの共催企画。美術プロデューサーとして、作家選考、展示運営、アーティストトーク等を行った。
あいちトリエンナーレ共催企画 「往還－地の荒野から－」 米山和子展 《こめのゆめ 2010》キュレーション	2010. 9. 15 ～9. 19	七ツ寺共同スタジオ	あいちトリエンナーレの共催企画。美術プロデューサーとして、作家選考、展示運営、アーティストトーク等を行った。
あいちトリエンナーレ共催企画 「往還－地の荒野から－」 栗本百合子展 《the lighting》キュレーション	2010. 9. 24 ～10. 3	七ツ寺共同スタジオ	あいちトリエンナーレの共催企画。美術プロデューサーとして、作家選考、展示運営、アーティストトーク等を行った。
【出版／企画・編集】			
あいちトリエンナーレ 2010 高嶺格 「いかに考えないか」パンフレット	2010. 10. 8 ～10. 17	七ツ寺共同スタジオ	あいちトリエンナーレでの高嶺格によるプロジェクトのパンフレットを企画編集。
「地熱の荒野しんぶん」4月号	2010. 4. 4	トトち舎	あいちトリエンナーレ共催企画「往還－地熱の荒野から－」（七ツ寺共同スタジオ）に連動した7回限定の個人発行新聞。4号。
「地熱の荒野しんぶん」5月号	2010. 5. 5	トトち舎	あいちトリエンナーレ共催企画「往還－地熱の荒野から－」（七ツ寺共同スタジオ）に連動した7回限定の個人発行新聞。5号。
「地熱の荒野しんぶん」6月号	2010. 6. 6	トトち舎	あいちトリエンナーレ共催企画「往還－地熱の荒野から－」（七ツ寺共同スタジオ）に連動した7回限定の個人発行新聞。6号。

「地熱の荒野しんぶん」7月号	2010. 7. 7	トトち舎	あいちトリエンナーレ共催企画「往還-地熱の荒野から-」(七ツ寺共同スタジオ)に連動した7回限定の個人発行新聞。7号。
【新聞原稿執筆】			
木村充伯展	2010. 5. 20	朝日新聞 朝刊文化欄「創」	ケンジタキギャラリーでの木村充伯の個展。若手作家に特有の“ゆるさ”にある、造形的特質を解説。
村上友晴展	2010. 6. 17	朝日新聞 朝刊文化欄「創」	名古屋市美術館での村上友晴の個展。「静けさのなかから」と銘打たれた企画にあり、展示空間の静謐さを解説。
庄司達展	2010. 9. 20	朝日新聞 朝刊文化欄「創」	碧南市藤井達吉現代美術館での庄司達「空間の航行」展。新作の大型インスタレーションと模型に言及。
西尾一三展	2010. 11. 11	朝日新聞 朝刊文化欄「創」	関市での故・西尾一三の回顧展。65年の長良川アンバンの牽引車であった西尾の美術作家としての検証に言及。
ぷろだくしょん我'S展	2011. 1. 27	朝日新聞 朝刊文化欄「創」	はるひ美術館で「キタイギタイ」と銘うたれた人気作家の個展。その想像力の軽やかさと原風景に言及。
手塚愛子展	2011. 3. 17	朝日新聞 朝刊文化欄「創」	名古屋芸術大学卒業の若手女性作家の個展。小さき命への誠実なまなざしと趣味性に言及。
【学内冊子「Ble」原稿執筆】			
特集：名古屋の現代美術画廊 70～80年代、画廊が牽引した名古屋の現代美術事情	2010. 6	名古屋芸術大学アート & デザインセンター「Ble」28号	特集のメイン記事の執筆と、「芸術編集研究」の授業の一環で、学生に取材テキスト執筆を指導。
REVIEW：ファン・デ・ナゴヤ美術展 黒へ／黒から	2011. 3	名古屋芸術大学アート & デザインセンター「Ble」30号	非常勤講師片山浩さん企画の展覧会のレポート。主に、本学関係の作家の作品に注目して記載。
【連載コラム原稿執筆】			
名古屋シネマテーク通信 next arts 通信	2010. 4 ～2011. 3	名古屋シネマテーク通信	1998年より毎月連載。中部地域に限らず、内外の現代アートや文化トピックスを巡るミニコラム。
【編集 & 執筆】			
特集「アート／アニメーション」 山村浩二 & 前田ちま子対談 採録構成 小田部羊一 インタビュー など	2010. 4	「REAR (リア)」no.23	＜特集＞記事構成と編集。「アート／アニメーション」での対談記事をはじめ、各寄稿記事の構成、編集を行う。
レビュー Artのメリー ゴーランド 7人のトップ ランナー	2010. 4	「REAR (リア)」no.23	岐阜県美術館での現代美術展の展覧会評。日本画の神戸智行の作品に注目。
特集「I♡トリエンナーレ」 長谷川祐子インタビューなど	2010. 8	「REAR (リア)」no.24	＜特集＞記事構成と編集。「I♡トリエンナーレ」での対談記事をはじめ、各寄稿記事の構成、編集を行う。

戦後名古屋の現代美術史入門 ＜3章＞名古屋市美術館開館前夜 1980～85年	2010. 8	「REAR (リア)」no.24	第二特集として「名古屋の現代美術史」を編集構成。3章を＜80年代前半、逸脱する場と作家の力＞として執筆。
戦後名古屋の現代美術史入門 ＜5章＞地域コンプレックスを超えて 1990～99年	2010. 8	「REAR (リア)」no.24	5章は90年代の＜美術館、ギャラリー、そしてオフ・ミュージアムの動向＞として執筆。
特集「橋本平八に就て」 舟越桂インタビュー	2011. 2	「REAR (リア)」no.25	＜特集＞記事構成と編集。での対談、インタビュー記事をはじめ、各寄稿記事の構成、編集を行う。
書評「肉アナ」礼賛 黒 グライ児著「肉体のアナーキズム」における中部前衛芸術の挑戦と忘却	2010. 2	「REAR (リア)」no.25	「肉体のアナーキズム」からあさいますお、ゼロ次元、岐阜アンパン、水上旬、糸井貫二を取り上げ、本著作の意義を記述。
【コンサート運営】			
YMENE (イメネ) 高木正勝ソロピアノコンサート 名古屋公演 運営協力	2010. 11. 24	名古屋市芸術創造センター	映像作家でもある高木正勝の名古屋でのソロピアノコンサート運営協力。美術文化コース2年「プロジェクト研究」の演習としても運営にあたった。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

f 教育内容・方法の工夫および作成した教材・資料等		g その他教育活動上特筆すべき事項
授業科目 プロジェクト研究		
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
アートマネジメントの実践を視野に、前期は基礎知識を、後期は実践を意図した。展示と公演の違いを理解するために、ともに実践の機会を得た。	ギャラリーでの展示や、コンサート運営の裏方の経験など、現場実践も取り入れながら、必要な器材の使用も導入。	

3. 学会等および社会における主な活動

h 学会等の名称	i 活動期間	j 活動概要その他
芸術批評誌「REAR」編集メンバー	2002. 10～現在	
名古屋市土木部堀川整備調整委員	2005. 4～現在	
かすがい文化振興財団評議委員	2008. 4～現在	
豊田市美術館運営協議会委員	2008. 4～現在	
地球市民交流センターアート作品選定委員	2008. 10～2010. 3	
ファン・デ・ナゴヤ美術展企画委員	2009. 4～現在	
岐阜市屋外広告物審議会委員	2011. 4～現在	